

☆紙面案内☆

今月号より1・4面カラーとなり、掲載ページが変わります。

診療体制は、3面です

ウオーム体操 4面
総支部元気だより 2・3面
市川医師の「新型コロナウイルス・パンデミックを経験して」は、2面です

地域社会の医療と福祉・保健衛生の社会化民主化のために運動を続けます

明るい医療

第725号

2021年7月10日

発行人 社会医療法人 新潟勤労者医療協会
五十嵐 修
発行所 社会医療法人 新潟勤労者医療協会
〒956-0814 新潟市秋葉区東金沢1459番地1
編集部 TEL 0250 (25) 1877
毎月10日発行



下越病院日曜ワクチン接種

五十嵐理事長に聞きました
政府はこれまで感染対策として、発熱者から新型コロナウイルス感染症の有無をPCR検査を行うことでクラスターの特定、封じ込めをはかるとしていました。2度目の緊急事態宣言が出された今年、1月以降は、飲食店等の時短営業の要請も効果が薄く、宣言の延長が繰り返されています。「政府のメッセージ性が乏しい」ことは国民の日にも明らかです。感染の広がりも抑えるた



理事長 五十嵐 修

新型コロナウイルス接種が拡大しているように受け止めていくべきか

新型コロナウイルスPCR検査体制を拡充し
ワクチン接種もできる限り進めよう

ワクチンの確保と接種体制の確立の問題でも政府の対応は随分遅れました。昔首相がようやく「高齢者のワクチン接種を7月末までに」と言い出し、行政や医

その通りです。にもかかわらず、菅政権は、今後とも入院ベッドを削減しようとしています。ベッドを減らす、地域の病院規模を小さくする、それは医師や看護

医療、介護の現場で頑張る人達の足を引っ張る真逆な対策ですね
勤医協の事業所ではどうですか

医療、介護の現場で頑張る人達の足を引っ張る真逆な対策ですね
勤医協の事業所ではどうですか
医療機関の多くがワクチン対応で混乱しています。集団接種の情報、医療機関の個別接種やワクチン確保の見通しが少しく明らかなってききました。勤医協の各事業所でも通常の業務に加え

接種数にも限りがあります。診療所などはスタッフ総出で対応に当るなど、連日のハードワークとなっております。現場の苦労は大変なものです。「いのちと健康を守る」「無差別・平等の医療と介護」この使命感で多くの職員が頑張っています。

地域協同基金の増額にご協力ください

コロナ危機から各事業所経営を支えるため、健康友の会員のみなさまに地域協同基金の増額へのご協力をよろしくお願い

め、医療機関、介護施設からも再三の申し入れが行われ、検査体制の抜本的な改善、保健所の人員体制の拡充、医療機関、介護施設への補償を強く求めてきました。

療機関での接種の筋道が確認されないまま、突貫工事のように進められました。当初はワクチンの確保数も不透明なままのクアウンズ。



舟江診療所でのワクチン接種

新潟勤医協の事業所紹介③

ときわ診療所



ときわ診療所は、新潟市東区にあり、空港、北に日本海を望む住宅街に位置し、設立は1965年4月(新潟地震の翌年)。新潟地震での医療支援をきっかけに誕生しました。当初は沼垂診療所の出張所(週3日)でしたが2000年4月現在地への新築移転を機に医師常駐・週6日体制になりました。



在宅医療には特に力を入れています。小笠原が、桑名病院・新潟院をはじめ周囲の関・介護機関と緊密な連携に務めています。2階の集会室は十卓球・太極拳・吹きケチワーク・町内班会域の方々の多彩な要

時短営業ができるよることを強く求めたいね。